

日本セラミックス協会関東支部若手研究発表交流会

神戸大学大学院 理学研究科 博士前期課程 2 年

滝 耕太朗

この度、日本セラミックス協会関西支部のご支援により、2025年11月29日に日本大学で開催された第13回日本セラミックス協会関東支部若手研究発表交流会に参加させて頂きました。私の研究テーマは「Mgを触媒とするハードカーボン材料の低温黒鉛化」という題であり、この研究は所属研究室でSPSを使った新しい実験をするために始まりました。そのため、私と指導教員の内野先生も手探りで実験を行っており、未熟な研究だったと思いますが、皆様が興味を持って発表を聞いてくださり、貴重なご意見も頂戴することができて非常に有意義な会でした。本当にありがとうございます。

今回の交流会は博士課程の学生にフォーカスした会であり、博士課程学生の進路や就職後のアドバイスなどを経験者の方々からして頂けるところが魅力だと思いました。私自身は博士課程には進学せずに次の春に企業に就職するので、あまり関係がないように思えますが、非常に有益な情報を手に入れることができました。今回の交流会で最も印象に残ったのは「博士卒の方が修士卒よりも専門分野に特化することができる」という博士卒の利点です。こんなことは当たり前なのかもしれません、学部の頃の私は修士を卒業するころには専門分野のことであれば何でも分かるようになると想像していました。しかし、実際修士2年になり、卒業が近づいた私が今実感しているのは自分の専門分野や使っている装置などについてまだまだ勉強すべき点が残っており、おそらく卒業までにすべてを習得することは不可能だということです。そのため、今回の交流会を通して、学部の頃に思い描いた研究者になるためには博士課程を卒業する程度の時間とやる気が必要だったのだなと強く思いました。これから私がどのようなキャリアを歩むのか分かりませんが、今回の交流会は私の今後のキャリアに大きく影響を与えているような気がしています。一流の研究者になるためのヒントとして皆様の体験談やアドバイスを活用しようと思います。

このように、今回の交流会は博士課程に進学せず就職する道を選んだ私にも多くの学びがあったので、来年以降の参加を検討している修士の学生の皆様にはぜひ参加して先輩方と会話して人生のヒントを獲得して欲しいなと強く思います。

関西支部でのポスター発表で私の発表を評価して下さり、関東支部の交流会に推薦して頂いた皆様のおかげで貴重な体験ができました。本当にありがとうございます。また、今回の交流会の開催に携わった皆様、参加者の皆様にも貴重な体験をさせて頂いたことを感謝しています。本当にありがとうございました。皆様とまたどこかでお会いできる日を楽しみにしています。最後に、日頃から私の研究を支えて下さっている内野先生にも感謝しています。本当にありがとうございます。